

お米とわたし

諫早市立長田中学校

一年

中村

菜々美

私が住んでいる町は、広大な田畑が広がっています。春は、水面に青空が反射し、夏は緑と入道雲が映え、秋には、機械の音が響き渡り一年中きれいな景色を魅せてくれます。そんなお米について考えってみました。私の家では、お米を作っています。毎年、種まきから始まり田植えをします。私の家では、機械を作った田植えをします。四年生、五年生のとき田植えのお手伝いをしました。そのお手伝いとは、機械を運転したことです。機械の運転をするのは、初体験でした。この時した体験は、他の人にはできない特別な体験だと思っています。

田植えのあとには、お米が元気に育つために肥料をまきます。その、肥料が今、ほとんどが海外製になっています。日本は、田安が進行しています。そのため、お米の値段とお米をつくるコストが上がっています。ですが

その値段とコストの金額があわず、利益を失
い廃業においこまれる米づくり農家も多くな
ります。未来には、お米がなくなり、米をのく
ていた田畑が荒れるかもしれません。
近年、ニースやインターネットで地球
温暖化ということを耳にします。そのため
お米の品種などにも変わりがあつてきます。
一般的なものは、コシヒカリやヒノヒカリを
はじめとした品種が作られていきましたが、
高温な暑さで品質や収穫量が悪くなつていま
す。なので、高温でも品質や収穫量も良い
なつほのかやにこまる、農林六号、はえぬき
などが販売されています。
私の家では、ヒノヒカリを育てています。
ヒノヒカリは、そのまま食べても甘くても
おいしいです。ふりかけをかけたリ、炊き込
みご飯として食べてもおいしいです。どれも
私の大好物です。
あと、五ヶ月ほどでお米の収穫の季節です。
機械の音が聞こえてくるとわくわくしてきま

す。私は、みなさんに、未来にはお米がなくな
なり、食糧危機になるかもしれないという
ことを伝えたいです。だから、私にもできる
ことを考えてみました。それは、お米を最後
の一粒まで残さず食べるということです。給
食では、たくさんお米が残っているのが現状
です。たった一粒だけでも残さず食べるだけ
でももちろんお米もよろこぶと思います。未来の
お米がなくなる可能性が少しでも抑えられ、
地球温暖化が少しでも進まなかったらうれし
いです。

これ以外にもできることはたくさんあるは
ずです。それを探し続け、少しでも良い未来
になっしてほしいです。